

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	各務原市鷺沼各務原町9丁目204-4 (電話) 058-370-8885		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年5月8日

【情報提供票より】 (平成 19年 12月 18日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27人
職員数	20人	常勤 13人, 非常勤 7人, 常勤換算	17人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1 ~ 2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	5,000~円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要 (平成 19年 12月 18日 現在)

利用者人数	21名	男性	4名	女性	17名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	5名	要支援2	4名		
年齢	平均 87歳	最低	74歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人 フェニックス、鷺沼中央クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、畑が広がる交通量の比較的小さい地域で、近くにスーパーや喫茶店があり、利用者が外出しやすい環境にある。昨年、隣接地に法人の複合施設を開設し、重度化した利用者が希望により特別養護老人ホームに移ったことで職員の負担が軽減され、利用者と共に過ごす時間的なゆとりができた。利用者の生活を支えるサービス提供施設として、ホーム利用者も複合施設を利用できる柔軟な支援を始めた。風呂のまたぎが困難でシャワー浴であった利用者も機械浴で湯船につかることができ、よい笑顔が生まれる等の効果があった。カラオケや運動マシン、卓球等楽しみの選択肢も増えた。今後は、地域の人を複合施設に招き、利用者と地域との交流を継続したいとするホームの取り組みに期待が持てる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は特に無かった。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組んだ。管理者と職員は、漫然とケアを続けるのではなく、常に振り返り「利用者はどうのような生活を望んでいるか」の原点に戻ることを心がけ、課題への改善策の実施や新しいテーマの検討に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、自治会長、自治会班長、民生委員、市職員、家族等をメンバーに3ヶ月に1回開催されている。地域との交流を図る窓口として、ホームの様子や活動等取り組み状況を報告している。課題とした部分を報告し、共に検討している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や希望、苦情は、直接聞くことを基本とし、家族の訪問時に積極的に傾聴する姿勢を実施している。年2回の家族会では、直接話すことに抵抗のある家族からの意見が聞けるよう、アンケート調査を実施している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議の開催や隣接した複合施設の開設により、地域から高校生の実習やボランティアの申し込みがある等、徐々に地域との交流ができ、よい関係づくりができて始めている。今後は、複合施設の共有空間を活用し、ホーム利用者や複合施設利用者と共に地域住民との夏祭り等を開催し、さらに、地域交流を図っていく方針である。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の他に、ホーム独自でつくった「ゆったり、たのしく、寄り添って」を理念としている。その人らしい暮らしの実現を目指し、ホームの運営に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	昨年、隣接地に複合施設を開設し、その機能を活用して利用者の生活の質やサービスの質の向上を図り、ホーム理念の実践に取り組んでいる。職員一人ひとりの意識も改革し、よき支援者への姿勢を全員で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入し、運営推進会議に地域の代表が定期的に出席する等、顔の見える付き合いが深まってきた。近隣の高校介護科の実習生を受け入れたり、地域からボランティアの申し込みがある等の交流も始まった。	○	今後は、複合施設の広場や喫茶店を地域にも開放し、ホーム利用者と地域の人が交流できるようにしたいとする計画があり、取り組みの実施が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員が一人ずつ行い、課題を職員の検討会議で話し合った。改善できることから役割分担を決め、責任をもって対応するように取り組んでいる。運営推進会議で外部評価結果を報告し、改善課題への取り組みも検討する予定である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、3ヶ月に1回、自治会長、自治会班長、民生委員、市職員、家族等をメンバーに開催されている。前回から隣接地に開設した複合施設の各施設代表も会議に参加し、多くの職員や関係者が一帯となり、利用者を支える地域となることを目指している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携が図られ、地域にある高校の実習を受け入れたり、ホームを含めた複合施設全体が地域福祉の拠点となっている。ホームで100歳を迎えた利用者を、市長や小学生がお祝いのため訪問したこともある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に金銭報告や利用者の日常の様子を報告している。また、年2回開催する家族会でホームからの報告を行っている。	○	さらには、家族との連絡において記入欄の記入方法の工夫が求められる。また、毎月の請求書発送時に、個別の身体状況や暮らしの様子、複合施設活用に伴うホームの思い等を報告する等の取り組みも期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設置しているが、家族の訪問時に直接話を聞くことを大切にしている。毎日記載する個人記録に家族連絡欄を設け、家族からの意見や連絡事項を共有できる仕組みをつくり活用している。家族会でアンケートを取り、家族からの意見を聞く機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の顔馴染みの関係が継続されることを大切に考え実施している。隣接する複合施設をホーム利用者も活用することから、複合施設全体を利用者の生活空間と捉えており、どの施設でも顔馴染みの職員がいて安心できる環境づくりが大切と考え、年に1~2人の職員異動を行う方針である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、法人独自の研修プログラムにそって行われている。また、外部研修については、案内を職員掲示板に張り、情報提供を行い、休暇の優先等配慮をしている。新しい職員は、経験年数の長い職員が付いて教育するエルダー方式を取っている。	○	ヒヤリハットの中で同じ種類の内容があるため、その内容についてマニュアル実行の確認、及びマニュアル項目の追加を検討する等の取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会、市内の事業者で作っている研修部会、包括支援センター等様々な会が主催する研修会等に参加し、交流を図り、情報交換の機会としている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅や施設等利用者が生活する場へ事前に訪問し、それまでの生活歴を尋ねたり、現在の楽しみや身体状況を把握している。本人の気持ちに寄り添い、少しずつ馴染んでいけるよう配慮している。体験入居もでき、職員等と相性が合わない場合は、系列他ホームへの入居も検討できる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	世話好きな人、料理の盛り付けの得意な人、洗濯物をきちんと干したりたたんだりする人など、本人の性格や得意を把握し、職員も助言をしてもらう等互いに支えあい暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	役割を持つことを喜ぶ人、外出が好きな人、話が好きな人等利用者の希望や好みを日常の中で注意深く観察し、職員間で共有している。言葉での表現が困難な利用者には表情や雰囲気からの把握にも努め、本人の笑顔が出る支援の方法に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見や希望を傾聴しながら、職員、訪問看護師、医師、複合施設職員からの意見等多くの情報を集め、ケア会議の中で話し合い、決定している。計画表を用い、支援の目標等を家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	複合施設開設に伴い、利用者の希望や状態確認を行い、介護計画への見直しも行った。重度化した利用者の希望による特別養護老人ホームへの移動や改築のため、現在2ユニットでのケアを行っている。利用者 と接する時間的な余裕が生まれ、ケア会議で個別ケアの見直しも行っている。基本的には、3ヶ月に1回の見直しを実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の複合施設を活かし、利用者の生活の質の向上を図りたいとしている。特別養護老人ホームの機械浴やデイサービスのカラオケ、運動マシーン、卓球等複合施設を利用した柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人医療機関にかかりつけ医師がある場合の受診支援はホーム側で行い、週1回、法人の訪問看護師が全利用者の健康管理や疾病相談を行っている。また、緊急の連絡や相談も看護師を通して連絡し、医師からの指示を受け、早い対応を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化や終末期におけるホーム側の対応を説明している。また、対応すべき時期を迎えた場合は、家族、医師、職員が一緒に話し合い、希望に沿った対応を決め、支援している。医療法人であり訪問看護師の来訪があることから、ホーム内での看取りの実績も積んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個別のケアをはじめ、日常の対応に一人ひとりを大切にする姿勢がある。職員のゆったりとした対応から、利用者もゆったりとし、信頼関係が見受けられよい笑顔がある。個人記録などの情報はきちんと管理を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の管理が訪問看護師により行われ、職員間で共有されているため、体調を見ながらの支援ができる。起床時間や外出への誘い、外部者とのコミュニケーションのとり具合等本人のリズムを優先した支援を基本とし、実践に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はホームで作り、食後、各自で皿を洗っている。昼と夜の副食は隣接の施設から搬送し、利用者のできる役割を分担・協力し配食している。盛り付け、食器を洗う等利用者の積極的な姿が見られ、職員も調理の作業から離れ、ゆとりある食卓の風景となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	複合施設ができたことから、利用者の身体状況と希望にそって、ホームの家庭風呂、デイサービスの広い風呂、特別養護老人ホームの機械浴から選び、週2回の入浴を楽しんでいる。機械浴の利用で湯船につかることができるようになった利用者もおり、喜んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の経験や現在の興味、また、身体能力を考慮しながら、楽しめそうなメニューを提案している。運動マシン、カラオケ、学習ドリルや音楽等多くの選択肢がある。職員は、役割やすることが本人にとって負担になっていないか、情報を共有し、支援している。	○	本人の馴染んだ習慣やできる事の継続が図れるよう支援することに加え、さらには、本人の現在の興味を引き出す場面を提案したいとする取り組みに期待がもたれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	少人数での毎日の散歩や近くのスーパーへの買い物、喫茶店への外出等外出を積極的に行っている。身体状況から短時間しか外出できない利用者が、20メートル離れた複合施設に入浴に行き、浴槽に浸かったり、外気に触れ、楽しい時間となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外の門構えが開放的で、玄関先に広い空間が広がる。玄関の出入口は、直接利用者から見えない構造にしている。ホームは広く、来客はインターホーンで来訪を告げる。施錠は一般家庭と同じとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を行い、避難経路、避難方法などを確認し、職員間の周知を図っている。内1回は、夜間を想定した訓練で、利用者には訓練であることは知らせていないが、職員1人で利用者を避難場所まで実際に誘導する訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取能力や体調に合せ、搬入された食事が利用者に適した食事になるよう各ユニットで手を加えている。食事の摂取量や水分摂取量を個別記録に記載し、把握している。体重測定も毎月行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは、木の床板や床暖房で温かみのある広い共有空間があり、車椅子利用も介助にもゆとりがある。中庭縁側に季節の花が植えられたプランターが置かれ、絵画や昭和天皇の写真が飾られており、利用者の落ち着く場所を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口に「思い出箱」を設置し、本人自身が判別ができる写真や品を表札として使っている。居室には、家族写真や本人の作品を飾り、その人らしい落ち着く大切な空間となっている。持ち込みは、家族と相談し、移動の安全に配慮して決めている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。